



# 木の駅ニュース

## 「木の駅」って何だのん？

軽トラとチェーンソーで晩酌を

### ●秋から実施

東栄町は丸ごと山の中、古来から山の恵みをいただいで暮らしてきました。その恵みの山が危ない！手入れのされない放置林が増えて真っ暗、間伐されて木々は打ち棄てられて無惨。商店も減少の一途、高速道路ができて便利になった分お客さんが流れてしまうのでは？村に暮らす心配は絶えません。

そんな同じ不安を抱える全国の山村で「木の駅」が広まり、東栄町でも秋からの実施準備が始まりました。

### ●山もお店も元気に

その仕組みは：

- ①切り捨て間伐材を搬出
  - ②道端で軽トラに積載
  - ③木の駅（土場）に運搬
  - ④材の長さ末端口径を測定して伝票記入
  - ⑤窓口で提出
  - ⑥地域通貨を発券（軽トラ一杯約3000円）
  - ⑦東栄町内登録商店で使用・循環
- ↓東栄町の山も元気、お店も元気に

プロは別として、山主にとって原木市場に出荷するのはハードルが高い。3m4mの用材を搬出するには林業機械やユニックトラックなどが必要で、それを作業委託するとほとんど手元に残りません。しかし、軽トラやチェーンソーはどこにもあります。木の駅では長さは50cm以上、太さ



は5cm以上ならOK。扱いやすい長さに切って、いつでも都合のいい時間に自分で測って伝票記入して窓口で提出して地域通貨に交換されます。

### ●1ポ6000円

このような材はC材といって、主としてチップ用に引き取られます。通常単価はトン3千円以下です。その単価に町等が3000円上乗せして、トン6000円で買い取ります。但し地元のお店でしか使えない地域通貨です。遠くの大型店舗やコンビニなどでは使えません。

これまでの木の駅の出荷者では数千円から多い人では月十数万円、になりました。人を使つての商売にはならなくても自分の余暇を活用しての小遣いにはなりません。さらにその対価は町外に出ずに町内を循環して地域経済を潤します。

何だか、道の駅に出す野菜みたい、そう、だから「木の駅」。

### ●木の駅の動き

木の駅は、09年岐阜県恵那市で始まり、その後、急速に広まり

鳥取県智頭町、愛知県豊田市、岐阜県大垣市、高知県土佐町、愛知県新城市、島根県吉賀町他で実施され、現在全国約20地域で年内実施に向けて準備中です。

既に始まっている地域では、「自分の山仕事が初めてお金になった。うれしい」「山がきれいになった」や「近くでも来なかったお客さんが来るようになった。畳もうと思つてたけどもう少し頑張る」「素人同士が山仕事の話で酒が飲めるのがうれしい」などといった声が多く聞かれます。山もお店も少しずつ元気になっていて、山村再生の起爆剤として注目を集めています。

とうえい木の駅は、町単独事業に加えてふるさと財団の「新地域再生マネージャー事業」の支援を得て実施します。これまで、4月23日に説明会、5月17日に準備会、6月6日に実行委員会を開催して、実行委員長に工藤和美さんが信任されました。

今後、一〇月オープンに向けて、出荷者と商店が寄り合い（実行委員会）を重ねていくことになりまますので、是非参画いただき木の駅と一緒に作り上げていきましょう。